

## 随 想

恒 川 武 敏

物価狂乱の声もやや下火となったこの頃、人は漸く我れに返った感がする。しかし、物価の昂騰は各方面に悪い影響を及ぼし、企業の倒産、失業者の続出、就職難等の結果となり、更に別の社会問題を発生させるのである。

このような様態の根本は何であろうか。経済政策の問題か、政治の貧困か、個々人の信念のない生活か等種々の面から考察されるであろうが、現今では「世界は一つだ」ということである。世界の距離は時間的に短縮され、情報は正確迅速に行なわれ、石油危機で見られる如く、各国は相互に関連し、複雑であるが、一体となって解決されねばならない。その底流にある「一体」とは何であろうか。世界の資源にせよ、食糧にせよ全ては人間の世界である以上、人間がこれを良くし、解決してゆかねばならない。それはお互が信頼という「精神面」の人間を中心とし、物中心主義から変らなければ、全て物の上で悪循環することになろう。

明治維新以来、日本の歩んだ道は文明国になろう、先進国に

迫り着こうという競争の道であった。即ち他人を超越することであり、利己的であって、人間の真価を発見することを忘れた施策であつたと思われる。

戦後三十年の歳月を経て漸く精神文化の尊厳さが分りかけてきた。それは社会福祉ということに気付きかけたということである。人間を労働力と見る資本主義社会の中にあつて、労働力のない老人、児童、身障者等の問題を始め、資本主義政策に協同できないものは全て冷遇されてきた。この見方が如何に誤つていたかは公害問題を省みれば一目瞭然である。最近とくに難病奇病の多く発生する原因が何処にあるか。即ちその原因は色々あると思われるが要する所、人間の福祉を念頭におかなかつた国家政策を再検討することである。結論的には個々人の能力を本人中心とした最も効率的な施策を樹立し、真の人間尊重を全面に打ち出して、始めて、政治、経済、宗教、医学、教育等の諸施策が行なわれることが緊急事である。

(佛教大学教授・社会福祉学)